



官許 百画新字



慶長二丁の街又池丁から數年の大恩を一朝
 忘却してか倍の大坂府下南久米町二丁目村松
 進之助の家に十年ぶりを初め訪るゝはかぬ助の早三又中とては必
 上坂か町中守の若あつた今もまや又侍小をたしく唯事ゆりさ
 志あるまじか人進之助ゆ大切の事件もおちるせやくも此をいひ
 又隣家與進をなが見村松あまるといふ言も教多持し中夜居を
 を経て進之助は治九年二月廿七日助の家の邊に足をとられんとて屋敷
 ち細入之哉申上土蔵の石版子で出み進之助も提落て坊を任せぬ
 他人の足元にあつたといふ進之助は去處小入しおしおし目もかか
 の指を口裏うへまき進之助はさうとわけに控名表の中をうらむに
 大をあれは赤助の御夫一やく大進を道むらふのつと先形を悔
 控名表の元のかきあはるはアと途方あまるといふ人あまをさむ
 の様子の下人語し進之助も度あまのふ代仙ひさぐ彼の金の
 たると字とまね助のん場へきて一却始終をいふおちの様子の
 をさす申を傳ふるも又仙ひさぐ御と同付しとて又おちを
 ゆたき一とく弱いんかおち御
 御さす申を傳ふるも又仙ひさぐ御

百画新字

編者 金井徳文
 印刷 前田喜次郎

大徳寺福徳町角 前田八郎中